

平成 30 年度 長寿科学研究開発事業における

事後評価の結果について

【事業概要】

本事業では、高齢者に特徴的な疾病・病態等に着目し、高齢者の介護予防や要介護度の重症化予防、健康保持などに向け、診断・治療、介入プログラムや標準的ケアの確立に向けた研究を推進する。

【評価方法】

長寿・障害総合研究事業課題評価委員会設置要綱に基づき、事後評価委員会を設置し、平成 30 年度終了予定研究開発課題に対し、書面ならびにヒアリング審査を行うことにより、委員会としての評価結果を確定した。

【評価結果】

8 課題について評価を行った。

(事後評価対象課題 1)

課題名：認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究

研究期間：H28～30

代表者氏名：平野 浩彦

所属・役職：東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科 部長

評価結果：優れている

評価コメント：

認知症の病態に応じた歯科診療を含む口腔管理及び栄養ケアマネジメントに関するガイドライン」がほぼ完成した。エビデンスの乏しい領域における初めてのガイドラインであり、さまざまな応用発展が期待でき、十分に評価に値する。本ガイドラインをきっかけに今後さらにブラッシュアップしていかれることを期待している。

(事後評価対象課題 2)

課題名：アドバンストな看護技術を導入した在宅・介護施設療養者の摂食嚥下・排便を支える多職種連携システムの構築

研究期間：H28～30

代表者氏名：真田 弘美

所属・役職：東京大学大学院医学系研究科 教授

評価結果：優れている

評価コメント：

摂食嚥下ケアと排便ケアに関して、エコーを用いた観察技術を開発した。企業と連携し画像処理技術により問題箇所を着色する方法を開発した。教育プログラムの開発も進んでいる。今後、我が国の高齢者に対するケアの質の向上に資する研究開発である。

(事後評価対象課題3)

課題名：市民主導の新たな包括的フレイル予防プログラムを通じた快活なまちづくりのモデル構築に関する研究

研究期間：H28～30

代表者氏名：飯島 勝矢

所属・役職：東京大学 高齢社会総合研究機構 教授

評価結果：優れている

評価コメント：

「フレイルチェック」の継続実施と広域展開が実現した。多くの自治体の賛同を得て研究が進められている。国民への啓発活動に積極的に取り組んでいる。市民活動とうまく連動し、フレイルの改善に結び付けるスキームが構築されており、今後の社会的ニーズに対応するもので、医療分野の進展に資する。地域住民主体であり継続、発展が望まれる。トレーナーと行政との連携が良い。

(事後評価対象課題4)

課題名：要介護高齢者半減を目指した日常生活動作指標の開発とテーラーメイド型介入方法の検証

研究期間：H28～30

代表者氏名：荒井 秀典

所属・役職：国立長寿医療研究センター 病院長

評価結果：良い

評価コメント：

ADL チェックリストならびにトレーニングプログラムが完成した。セラピストの眼の見える化により、介護員でも実施できるプログラムとしたことに意義がある。BADL、IADL の変化について高齢者の状態別による変化について明らかになった点について評価できる。施設等へのADL チェックリストとトレーニングの普及により、得られる効果を学術的に確認してほしい。

(事後評価対象課題 5)

課題名：地域包括ケア体制実現のための医療・介護レセプトを連結した情報基盤の作成とその活用に関する研究

研究期間：H29～30

代表者氏名：松田 晋哉

所属・役職：産業医科大学 医学部 教授

評価結果：優れている

評価コメント：

医療及び介護レセプトを連結して分析するための簡易ツールがほぼ完成した。これは地域包括ケア体制を構築する上で不可欠である。医療と介護を同時に必要とする高齢者の福祉の発展に寄与しうる。地域包括ケアの推進のために自治体の実務担当者が使いやすいツールを開発した本研究の意義は大きい。

(事後評価対象課題 6)

課題名：地域包括ケア推進に向けた地域診断ツールの活用による地域マネジメント支援に関する研究

研究期間：H29～30

代表者氏名：近藤 尚己

所属・役職：東京大学 大学院医学系研究科 准教授

評価結果：優れている

評価コメント：

多様な地域組織と連携して研究が進められている。若手研究者に活動機会が積極的に提供され、その結果、若手研究者の複数の論文が受賞した。本研究開発の成果物である支援ガイドについては、実際に研究者が自治体を支援した実績に基づき作成されており、自治体についても都市から地方までバリエーションがある。今後、汎用性が高いガイドとして全国に普及することが期待できる。

(事後評価対象課題 7)

課題名：身体および認知的フレイルの予防方法の開発と効果検証

研究期間：H28～30

代表者氏名：島田 裕之

所属・役職：国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部 部長

評価結果：良い

評価コメント：

「身体と認知フレイルの定義」の明確化および「コグニノート」と「お出かけアプリ」の開発に成功した。多数例での効果検証も行われている。その有用性の評価がエビデンスとして

捉えられた。多数の自治体との連携体制が構築されており、さらなる展開が期待できる。

(事後評価対象課題 8)

課題名：医療介護情報の連結する方法の検証とロジックの構築及び医療介護の地域差分析:
効果的な医療-介護の二次データ活用システム構築のためのヘルスサービスリサーチ

研究期間：H29～30

代表者氏名：田宮 菜奈子

所属・役職：筑波大学 医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野 教授

評価結果：良い

評価コメント：

医療データと介護データとの連結方法が確立された。それにより、医療サービスと介護サービスを同時に必要とする後期高齢者の増加に対応する施策を推進する上で貴重な基礎的データをもたらしうる研究である。すでに大腿骨頸部骨折の総費用や向精神薬使用実態、介護施設利用者の入院状況などに関する具体的成果が得られている。データベースの早期公開、解析方法のマニュアル化等により、多くの研究者の関わりが増えることが望まれる。

【事後評価委員会日程】

(書面審査) 平成 30 年 11 月 30 日 (金) ～12 月 10 日 (月)

(ヒアリング審査) 平成 30 年 12 月 14 日 (金)

【評価項目】

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

【課題評価委員】

氏名	所属・職名
玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室
◎中村 利孝	東都三軒茶屋リハビリテーション病院
徳田 治彦	国立長寿医療研究センター
吉村 健清	(一財) 救急救命九州研修所
井上 智貴	群馬大学医学部附属病院リハビリテーション科
永井 久美子	杏林大学
田高 悦子	横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学分野
鷺見 幸彦	国立長寿医療研究センター
飯島 節	国立障害者リハビリテーションセンター

◎委員長